

## 平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	学校給食課	内線等	66-1800
----	-------	-------	-----	---------

事業コード		事務事業名	学校給食内容充実事業		
根拠法令等	学校給食の管理と指導（愛知県教育委員会）	A 法令	B 条例	C 規則	D その他

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	学校教育
------------------	------

事務事業の内容

対象（受益者）	小中学校の児童、生徒の給食を作るにあたり
手 段	献立の原案、物資の選定等に幅広い層の委員に参加、検討してもらうことにより
想定する成果	栄養価を確保し、より子どもたちの口に合った給食を提供する。

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
原案検討会	11回	11回	11回
献立委員会	11回	11回	11回
物資選定委員会	11回	11回	11回
給食主任者会	2回	2回	2回

成果指標

成果指標名	残菜率	年間セレクト給食実施回数
成果指標の説明	総残菜量/総出荷量 × 100	年間セレクト給食実施回数

事業の進捗状況（一般会計）

（千円）

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	14.0%
	実績	14.7%	14.1%	-
成果指標	計画	-	-	5回
	実績	5回	5回	-
事業費	事業費	4,764	3,701	3,328
	人件費	3,218	3,114	3,156
	(人数)	0.4	0.4	0.4
	合計	7,982	6,815	6,484
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	7,982	6,815	6,484

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	15評価	18評価	15評価	
達成度	3	3	3	3	調理する調理員を含めた原案検討会をはじめ、諸会議出席のメンバーからは、毎回活発な意見が飛び交う。
経済効率性	2	2	2	2	業者からの新しい食材の試食を含めた説明会を開催している。
事務効率性	2	2	2	2	年2回の給食主任者会で、諸会議の年間スケジュールを調整している。
必要性	2	2	2	2	子どもたちにとってよりよい献立作成を目指し、多方面からの検討が必要とされる。
小計	9	9	9	9	
施策への貢献度	3	-	3	-	
合計	12	9	12	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	原案検討会、献立委員会、物資選定委員会、給食主任者会など、栄養士が軸となり進めているが、現場の教師、保育士、保護者代表の声を多く取り入れ、今後も子どもに喜ばれる給食を提供できるようにしていきたい。
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成8年度からセレクト給食を実施し、選べる楽しみを子どもたちに与えた。</li> <li>平成16年度から子どもたちから献立を募集し、学校給食で採用できるものを献立として取り入れた。</li> <li>児童生徒に、献立と生活に関する給食アンケートを実施し、献立作成の参考にしている。</li> </ul>	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の食材ではなかなか確保できない栄養摂取にどう取り組むかが課題である。</li> <li>児童生徒が蒲郡市の産業について考えるため、地場産物を給食食材に取り入れたいが、給食費と食材の購入価格とのバランスがあり、導入がむずかしい。</li> </ul>
---

平成20年度予算に反映する項目

--

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

# 平成18年度事務事業評価表

担当	教育委員会	学校給食課	内線等	66-1800
----	-------	-------	-----	---------

事業コード		事務事業名	給食施設維持管理事業				
根拠法令等	下水道法及び労働安全衛生法など		A法令	B条例	C規則	Dその他	Eなし

総合計画での位置付け

基本目標

施策名

豊かな心と創造性を育むまちづくり	学校教育
------------------	------

事務事業の内容

対象（受益者）	小中学校、保育園の児童、生徒のために
手 段	学校給食設備の保守管理を適切に実施することにより
想定する成果	学校給食の安全な提供を図る

事業の概要

項 目	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度計画
排水処理施設保守点検委託料	2,994,600	2,814,000	2,814,000
空調設備等保守点検委託料	4,620,000	4,410,000	4,410,000
ボイラー運転管理等業務委託料	1,881,554	1,943,779	1,958,000
施設管理機器等保守点検委託料	2,822,120	6,297,410	5,866,000
施設衛生管理等業務委託料	2,553,794	2,116,198	1,506,000

成果指標

成果指標名	保育園・小中学校児童生徒一人当りの給食施設維持管理事業費
成果指標の説明	給食施設維持管理事業費/園児、生徒数

事業の進捗状況（一般会計）

(千円)

		平成17年度決算	平成18年度決算	平成19年度予算
成果指標	計画	-	-	2,109円
	実績	2,465円	2,928円	-
成果指標	計画			
	実績			
事業費	事業費	21,138	24,785	17,694
	人件費	4,826	4,670	4,733
	(人数)	0.6	0.6	0.6
	合計	25,964	29,455	22,427
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	25,964	29,455	22,427

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	18評価	16評価	18評価	16評価	
達成度	3	3	3	3	施設の管理には、特殊な技術・資格を有するものが多く法定点検等が義務化されたものがあり、これら全てを実施している。
経済効率性	2	2	2	2	施設の利便高度化に伴い、種々の維持管理費の負担増となっている。
事務効率性	2	2	2	2	多種の施設維持管理の費目があり、契約、支払事務量が繁雑になる。
必要性	-	3	-	3	
小計	7	10	7	10	
施策への貢献度	3	-	3	-	学校給食実現のための施設である。
合計	10	10	10	10	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	従来の施設に比べ、学校給食業務の効率・安全衛生面においては改善されたが、設備機器が多種で複雑になり、維持管理費が増嵩になり課題が残る。
------	---	---	---	---	---

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> <li>設備維持のため必要最少限の保守を実施している。</li> <li>設備機器の点検業者に最少の費用で最大の点検ができるように交渉している。</li> </ul>	

今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>新センターが稼動して1年半が経過し、機器の消耗品の取替えが必要になってきている。</li> <li>機器が作動不能とならないようにするには、定期的な点検が欠かせない。</li> <li>調理洗浄作業が、建設時と作業効率を考えた現在で少し違うため一部作業環境が良くない所もある。</li> </ul>
--

平成20年度予算に反映する項目

機器の消耗部品、職場環境改善の費用が必要である。
--------------------------

今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 **現状維持** ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】